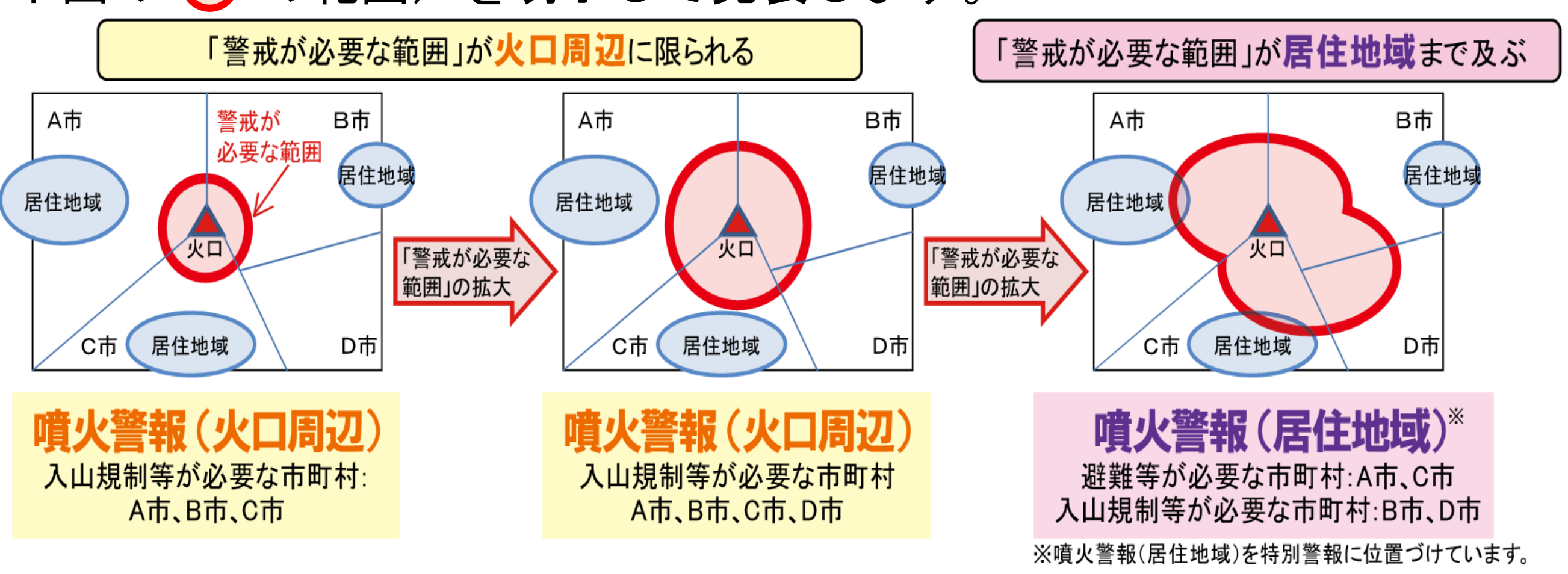


噴火警報・予報

気象庁は、噴火災害軽減のため、全国111の活火山を対象として**噴火警報・予報**を発表しています。

噴火警報は、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象（大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流等、発生から短時間で火口周辺や居住地域に到達し、避難までの時間的猶予がほとんどない現象）の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に、「**警戒が必要な範囲**」（生命に危険を及ぼす範囲、下図の○の範囲）を明示して発表します。



噴火警報が対象としている主な火山現象

大きな噴石
噴火によって火口から吹き飛ばされた概ね20~30cm以上の大きな噴石は、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散します。破壊力があり、人体や建物に被害を及ぼします。

火砕流
高温の火砕物（火山灰、軽石等）と高温のガスが一体となって猛スピードで山腹を駆け下る現象です。温度数百度、最大時速100km以上に達する場合もあり、その通過域では焼失・破壊など壊滅的な被害が生じます。

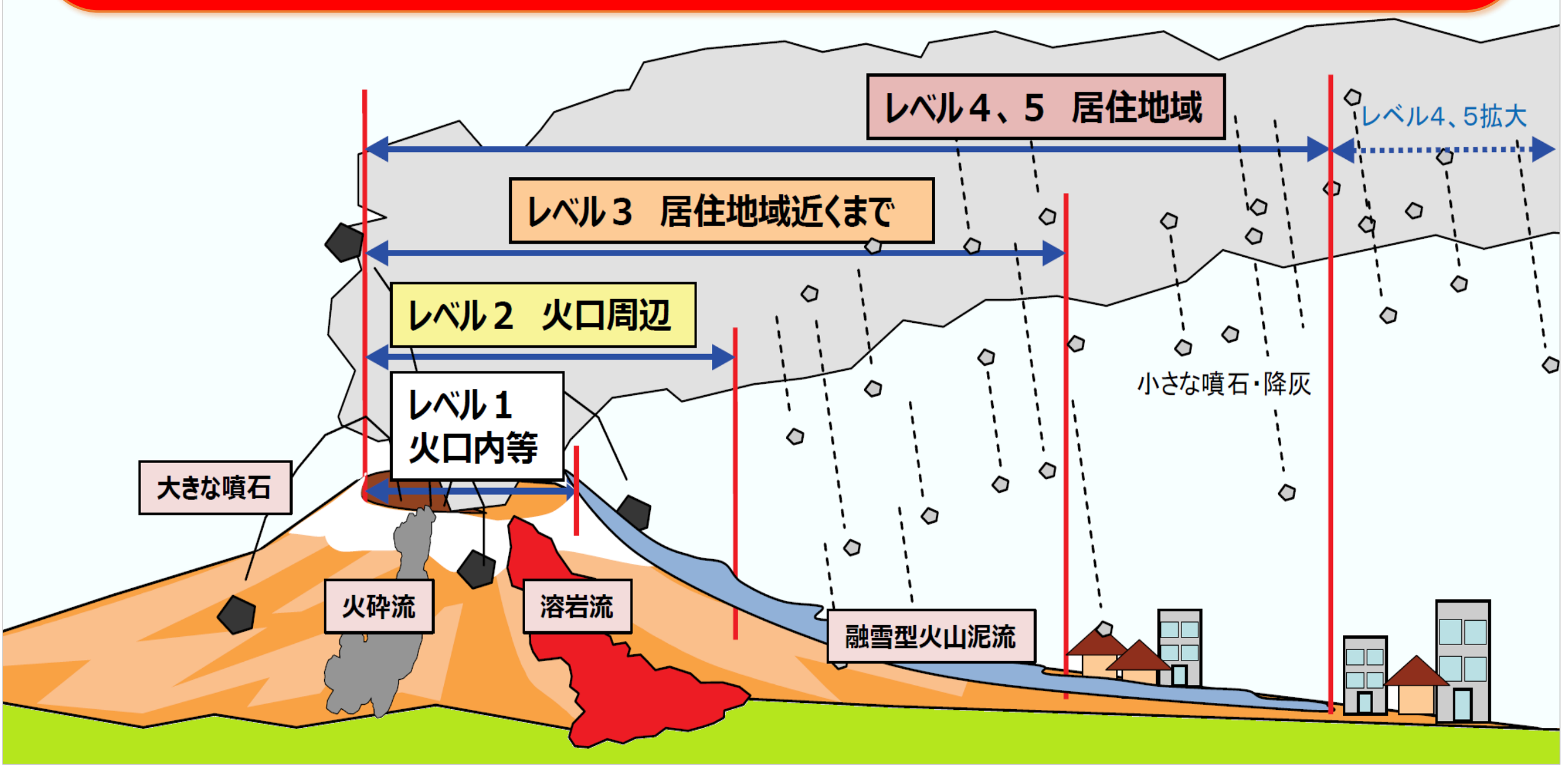
融雪型火山泥流
噴火に伴う火砕流等の熱によって積雪が融け、大量の水と土砂が一体となって高速で流れ下る現象です。時速60kmを超えることもあり、積雪の状況によっては谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、通過域では壊滅的な被害が生じます。

噴火警戒レベル

噴火警戒レベルは、火山活動の状況に応じて「**警戒が必要な範囲**」と防災機関や住民等の「**とるべき防災対応**」をキーワードとともに**5段階に区分して発表**する指標です。

- レベル5（避難）及びレベル4（高齢者等避難）では、「警戒が必要な範囲」が居住地域まで含まれ、「**噴火警報（居住地域）**」で発表します。特別警報に位置付けられます。
- レベル3（入山規制）及びレベル2（火口周辺規制）では「警戒が必要な範囲」が火口周辺に限られ、「**噴火警報（火口周辺）**」で発表します。
- 噴火警戒レベルに応じた「警戒が必要な範囲」と「とるべき防災対応」は、地元の火山防災協議会における避難計画の共同検討を通じて、市町村や都道府県の地域防災計画に定められています。
- 噴火警報が対象としている主な火山現象（大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流）

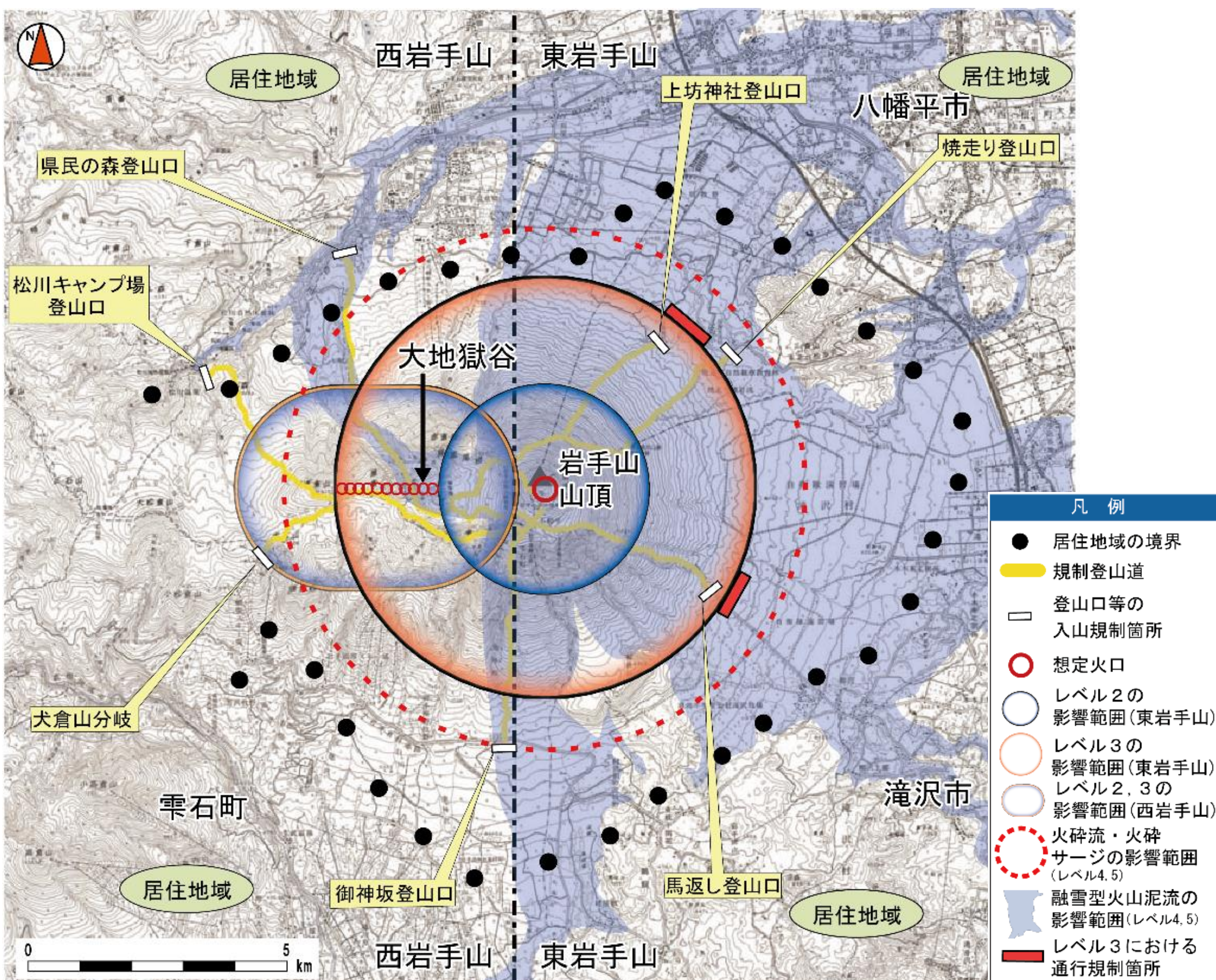
噴火警戒レベルに応じた段階的な「警戒が必要な範囲」



岩手山の噴火警戒レベル

【岩手山】噴火警戒レベルに対応した警戒が必要な範囲

| 種別 | 名称 | 噴火警戒レベル (キーワード) | 警戒範囲 |
|------|-------------|--------------------|--|
| 特別警報 | 噴火警報 (居住地域) | レベル5 (避難) | 【大きな噴石】 火口から概ね4km以内 【火砕流】 火口から概ね5km以内 |
| | | レベル4 (高齢者等避難) | 積雪期においては、融雪型火山泥流の影響が及ぶと想定される地域。 |
| 警報 | 噴火警報 (火口周辺) | レベル3 (入山規制) | 【大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流】 火口から概ね4km以内 |
| | | レベル2 (火口周辺規制) | 【大きな噴石】 火口から概ね2km以内 |
| 予報 | 噴火予報 | レベル1 (活火山であることに留意) | (火山活動は静穏な状況。活動状況によっては火口内で火山ガス等の噴出、散発的な火山性地震や火山性微動が発生する場合があります) |



※東西2つの火口を想定し作成されている